規範の相対化学習を通して価値観を修正する中学校社会科授業開発と実践
- 公民的分野の単元「私たちと現代社会」におけるキャリア教育へのアプローチ -

教科・領域教育専攻
社会系コース
高倉　健輔　　指導教員　伊藤　直之

序章　本研究の目的と方法

本研究では規範の相対化学習を通して価値観を修正する社会科授業を開発し、実践することを通して生徒の価値観修正の結果を検証した。様々な社会問題について政治家や専門家など様々な立場から考えさせ、説得力のある理論や説明をもとに望ましい解決策を追求して選択する授業提案は昨今多く見うけられる。しかし、社会科教育において、自己の諸課題を題材に規範の相対化学習を通して生徒の考える価値観を修正させる社会科授業提案は少ない。

また、本研究では、社会科教育の理論からキャリア教育実践へのアプローチを試みて、生徒の実りのある将来のための人格形成、特にキャリア教育に寄与することも一つの目標とする。

第１章　先行研究の整理と分析

規範の相対化学習と価値観の修正学習の定義を行い、理論構築のために規範に関する二つの先行研究を参考にする。

一つは、社会集団のもとで規範に関して合意形成を行う活動を通して自分自身のとるべき指針を決定する授業例として吉村氏の授業論を挙げる。公共的価値を創出する授業の一例ではあるものの、生徒個人の切実な課題を解決できることに関しては不十分であり、授業分類表においては客観性と主観性を相互に考え、議論する授業の形式であると位置づける。

もう一つは、規範を対象に規範反省学習を行う授業例として梅津氏の授業論を挙げる。規範のもつ権力作用を分析・吟味し、差別・抑圧の社会問題の解決を指向して自己言及的に規範の再定義を促している授業の一例ではあるものの、あくまで歴史教育において規範の反省学習を行う段階で留まる。授業分類表においては主観性を客観的に捉えなおし、様々な文化体系を考える授業形式であると位置づける。

第２章　キャリア教育と社会科教育の関連性

キャリア教育の定義を確認し、キャリア教育に関する先行研究を分析し、本研究で理論づけるキャリア教育実践はどのような位置づけであるか定義する。キャリア教育と社会科教育はどのように関連し合い、なぜ価値観修正学習の方法の一つとしてキャリア教育実践が最適な授業実践になり得るか確認する。

本研究のキャリア教育は先行研究分類の中でも「価値多様的で、社会的活動を有しないキャリア教育実践」に近い授業実践である。

本研究において、キャリア教育とは一人ひとりの生徒が自分の良さや可能性を認識し、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開くことができる能力を育成できるような教育であると定義する。

社会科教科の目標とキャリア教育の目標を混在するのではなく、あくまで社会科教科の単元内容、目標の中にキャリア教育のそれらの中でも類似、一致した内容が存在するかどうか考察

し、授業実践の単元を考えることが教科を通したキャリア教育の実践の形だと考察する。

第3章　単元構成論と授業構成

単元構成は以下の表1のとおりである。

表1　単元「社会を知ることを通して自分を知ろう」の構成

理論	視点	単元	授業内容
規範反省	他者の規範について 自立性、超越性を持った規範が他者の行動に影響を与えていることを把握する	小単元1	メジャー移籍する野球選手と尖閣諸島中国漁船衝突事件における海上保安官の規範を反省する。ダイヤモンドランキングを活用し、現時点での生徒の規範を確認する。
		小単元2	防衛大学卒業式出席問題と歌舞伎役者の跡継ぎ問題について規範を反省する。
規範の相対化、価値観修正	自己の規範について 自立性、超越性を持った規範が自己の行動に影響を与えていることを把握する	小単元3	普通科高校進学と実業系高校進学に関する生徒自身の価値観を修正する。
		小単元4	日本の終身雇用制度を諸国の就職システムと対比し、生徒自身の価値観を修正する。ダイヤモンドランキングを活用し、授業を受けて改めて生徒の価値観を修正する。

単元「社会を知ることを通して自分を知ろう」の授業構成は以下のとおりである。

小単元1「プロ野球FA問題と中国漁船衝突映像流出事件を考える」の授業では、ダイヤモンドランキングを活用し、生徒の現時点での価値観について気づかせる活動を取り入れる。そのあとプロ野球選手メジャー移籍問題と尖閣諸島中国漁船衝突事件問題から社会的規範と個人的規範を客観的に捉える授業を実践する。

小単元2「伝統文化のためのキャリア選択について考える」の授業では防衛大学卒業者任官拒否問題と歌舞伎役者跡継ぎ問題から小単元1同様に社会的規範と個人的規範を客観的に捉える授業を実践する。

小単元3「普通科高校、専門学校への就職について考える」の授業では生徒の普通科高校進学と専門学校進学のメリット、デメリットを考えさせる活動から、自己の価値観や規範に気づき、主観的に捉える授業を実践する。

小単元4「終身雇用制について考える」の授業では、日本の職業的慣例の一つである終身雇用制について学習し、小単元3と同様に自己の価値観や規範に気づき、主観的に捉える授業を実践する。最後に授業前後で変化もしくは変化しなかった価値観についてダイヤモンドランキングを再び作成することで、自己の価値観に気づく活動を行う。

第4章　授業実践を通した価値観修正学習に関する考察

2020年11月17日、鳴門教育大学附属中学校第2学年の課題探求学習の時間に50分×2コマを使って授業実践を行い、生徒のワークシート、ダイヤモンドランキングという思考ツール記述の授業前後の変化からおおよその価値観修正は生じたと考察した(詳細は本論文を参照)。

終章　本研究の成果と課題

本研究の理論実践の結果どのような成果と課題が得られたか分析する。

成果としては以下の三点が挙げられる。一点目は規範相対化、価値観修正学習の理論を提唱したことである。二点目は、中学校の社会科公民分野の単元「私たちと現代社会」において、職業に関する具体的授業開発を行ったことである。三点目は、社会科教育の理論からキャリア教育実践へのアプローチを試みたことである。

キャリア教育や道徳の指導に比重を置きすぎるあまり、社会科の教科が担うべき本来の教科指導がおろそかになってしまうことや教師から一方的な価値注入型授業となってしまう危険性があることは今後の課題である。